

## 京都府魅力ピックアップマップづくり

京都府京都市立嵯峨小学校 忠谷嘉人

## 1 地図帳との出会いを大切に

子どもたちと地図帳との出会いは「都道府県名スリーヒントクイズ」であった。これは、①都道府県の位置する地方 ②特産品 ③有名な場所やゆかりの人物といったヒントを与え、最後に都道府県の形を提示し、どの都道府県かを当てさせるクイズである。ところが、手がかりになるはずの3つのヒントは、あまり有力な情報ではないようで、子どもたちの目が輝き出したのは、都道府県の形を見せた時であった。地図帳の「都道府県の区分」を見つめ、示された形と同じものを必死になって探しているのである。「またクイズをやりたい！」子どもたちのアンコールの声が高まり、2回目を開催することになった。競争心の強い4年生は、次回のクイズに負けたくないため、主体的に何度も地図帳を眺めるなど、たいへん微笑ましい姿が見られた。すると、しだいに「金魚の形だから静岡県だ」や「山形県は人の横顔みたい」と形に特徴を見出し、クラスの大半が形を見せるだけで都道府県名を言い当てるようになった。

夏休み前には、さくいんを使って暗号の位置を解説する「暗号解説？ここはどこでしょう？」という課題を与えた（「38 カ 4」は「東京ディズニーランド」の位置だ、など）。また、「57 コ～サ 7」は「エジプト」の位置を示すことなども課題に加え、地図帳には世界の記述があることにも気づかせるようにした。

このように、4月よりゲームの要素を取り入れながら、地図に親しみ、地図帳を活用できるように工夫してきた。以下本稿では「地図帳で調べ、

地図にまとめて表現する」ことを意図して構成した4年「京都府のようす」（6時間）の実践を『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』（以下、地図帳）の使用を想定して紹介する。

## 2 京都府ってどのようなところ？

まずは日本列島の中での京都府の位置を想起させ、「となり合う都道府県を全てあげましょう」と問いかける。滋賀県・奈良県・大阪府・兵庫県は、みんな賛成であったが、福井県と三重県は意見が分かれた。そこで、地図帳p.27～28を開き、京都府は6つの府県と隣接しており、北は海に面しているという位置関係を確かめた。次に、京都府の白地図を土地の高さで色分けすることで、山や川が多いという土地のようすに気づかせた（写真1）。しかし、子どもたちの意識の中にある京



写真1 土地の高さで色分けした地図

都府とは、自分たちが住む嵯峨嵐山および京都市内くらの狭い範囲ではないか。そこで「京都府とはどのようなところなのだろうか」という学習問題を設定し、京都府は山が多い、古いものが多い、観光客が多いなどといった生活経験による認識から、わたしたちの住む京都市を含む京都府の特色へと視野を広げようと考えた。そして、子どもたちが「京都府の特色」を意欲的に調べるための手がかりとして地図帳を活用することにした。

## 3 地図から特色をピックアップ

まず、地図帳p.7の「地図帳のやくそくごと」を参照し、地図帳にはさまざまな地図記号があることを学習した後、地図帳p.27～30から読み取れる地図記号を探し出すようにした。



図1 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.27



図2 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.30

図1では、特産品の「丹後ちりめん」が見られ、近くには日本三景の一つでもある名所「天橋立」も確認できる。また、図2では地図の縮尺が変わり、「まつたけ」や「たけのこ」といった特産物が見られるようになっている。

このように、地図帳の地図記号を手がかりにすることで、子どもたちは特産物や特産品、温泉、名所、寺社などを次々と読みとっていた。そして、それらをノ



写真2 見つけた特色を書きあげた地図

ートや白地図に書きあげる（写真2）ことで、京都府全体の特色に目を向けることができた。

#### 4 魅力ピックアップマップをつくろう

地図帳から京都府の特色をピックアップした子どもの感想からは「西陣織と京友禅の違いが知りたい」「京都府の有名なものについてもっと調べたい」という追究意欲がうかがえた。そこで、地図帳p.12の「調べたことを地図にまとめよう」を参考にして、「京都府魅力ピックアップマップをつくろう」というまとめ方を提示した。そして、自分がマップに載せたい特色についてわからないところやもう少し調べたいところをインターネットの京都府のHPで調べた。すると、地図帳から得た情報をきっかけに、「北山杉」が京都府の木であることや特産品の多くは「京〇〇」と「京」

が付くということに気づいたり、テレビで観ている有名人が実は京都府出身であることを発見したりするなど、最後まで興味をもって調べ、こだわりのあるまとめができた。



図3 地図にまとめた例

#### 5 実践を終えて

「天橋立は、橋かと思っていたら木がいっぱい生えていて驚いた」という感想が心に残っている。やはり、子どもは自分の住む京都府についてあまり知らないということを確認し、実践の成果を感じた。また「はじめは山がいっぱいあるとしか知らなかったけど、今では京都には京野菜や織物がたくさんあっていい所だ」という学習を通しての高まりに加え、「海や山の自然を利用しているのでは?」「扇子や焼き物など古くからの伝統が残っていて素敵なところだ」といった今後の学習につながる問題意識や他の都道府県の特徴への興味のふくらみも見られ、楽しく学習を終えることができた。